

ウクライナ国避難民の受け入れについて

(1) 趣旨

10年前に東日本大震災が起きたあと、台湾から200億円の義援金が届いたことを知って、驚いたと同時にその親日の姿勢に感謝の念が沸々を湧いてきたことを覚えています。

蔡英文総統は、「台湾と日本はいつまでも、固く結ばれている隣人だと伝えたい。台湾人と日本人は心と心で深いつながりを築いている。いつまでも日本を応援しています」とメッセージを寄せてくださいました。

そればかりか大震災発生後5日目には被災地に入り、炊き出しを行って暖かい食事を振舞ってくださった。さらに、被災地の住民に世帯当たり5万円から7万円の現金配布までして「日本頑張れ」と応援して下さいました。

更に2年前の昨日、2020年4月21日にはコロナ禍で喘ぐ私たちに200万枚ものマスクをお送り下さるなど、継続して隣国の私共を家族のように支援してくださっています。

台湾は、ウクライナ軍事侵攻を受けて緊張感が高まっていますが、喫緊の課題は、そのウクライナ軍事侵攻です。台湾から受けた心温まる支援を私共はウクライナに振り向ける時ではないかと考えます。

人は一人ひとり、かけがえのない存在であり、豊かに、価値ある存在としてその人らしく生きていく権利があります。

今般のロシアによるウクライナ国侵攻は、社会正義に悖る、想像を絶する行為で、人間の尊厳を踏みにじるばかりでなく、市民が社会正義のもとで、平等、かつ自由に、生きいきと生活し地域社会の活動に参加するウェルビーイングの形を破壊する、真に理不尽な所業です。決して許されるものではありません。

ウクライナ国自体には手が届きません。しかし、価値無き存在として機能不全の極みに陥っている避難民にはリーチアウトできます。

私共は社会福祉に従事しています。戦禍に喘ぐ避難民に国際ソーシャルワークの観点から、実践科学である社会福祉援助技術を駆使して手を差し伸べたいと思います。

具体的には、綿密なアセスメントをもとに、個々人に対しケースワークやカウンセリング、レフュジーケアマネジメント、コミュニティーオーガニゼーションを実践していきたい。

待ち受けるのは、居住環境の整備、メンタルケア、ボデーマネジメント、就労、就学、保険医療機関の受診など多岐に亘ると考えられます。

市、県、国の指導を受けながら由布市で活躍している福祉・医療専門職などのお力を借りて早急に受入体制を整えたいと思います。

(2) 受け入れ場所 法人所有施設

(3) 時期

法務省出入国在留管理庁、由布市並びに大分県の要請に迅速に対応することとします。相応の準備を急ぎます。

(4) ハウツー

- 1 居住環境の整備、日用品や備品の洗い出しと補助事業等を活用した発注、工事着手
- 2 受入プロジェクトチームの組織化と受け入れ態勢の整備
- 3 ウクライナ語対策（通訳や多言語翻訳機）